

80億円の太閤堤跡歴史公園

共産党提案の修正案を可決

25億6千万円のPFI事業を「予算から削除」

市長の重点公約事業

見直しをせまられる

3月30日の市議会本会議、共産党が市長提案の「宇治市一般会計予算案」から「(仮)宇治川太閤堤跡歴史公園整備運営事業」の債務負担行為設定を削除する修正案を提出。修正案には市民の一部・公明などが賛成し、賛成多数で可決されました。市長の重点施策が見直しを余儀なくされています。

債務負担行為は、事業を民間事業者に一括して任せるPFI方式で進めるために、2034年度まで25億6千万円の財政支出を担保するために設定するもの。

昨年9月に市議会に補正予算として提案され、修正・削除されたものと同額でした。市長が同じ提案を二度行い、二度とも議会で「否決」されたことは宇治市史でもきわめて異例な事態です。

観光施設に「公民館機能」は無理

太閤堤跡歴史公園事業は、PFI方式で複合観光拠点として整備しようというものです。

PFI方式では、入札応募資格に博物館運営の経験などの条件があり、市内企業は1社も参加できません。参加意欲を見せている大手ゼネコンからは「地元企業との共同体は避けたい」とする意見が出されています。

市の説明では、年間25万9千人の観光客数が見込まれるとしていますが、議会審議で、平等院などを目的にきた観光客の多数が太閤堤公園に入場するというは楽観的過ぎると指摘されました。入場者数が予想を下回り、総収益予想18億円3千万円より少ないと、差額は市の負担となります。

宇治公民館・市民会館を廃止して、その機能の一部を公園の複合施設内に移転するとしています。観光施設に公民館はそぐわず、公民館は別に建替えるべきです。

太閤堤事業には、各党から、批判が続出しましたが、市は十分な説明ができませんでした。

子育て支援、暮らし応援に予算配分を

宇治市では、保育所待機児の解消、中学校給食実施、学校施設改修、水道料金値上げ中止、国民健康保険料引き下げ、特養ホームの増設など切実な課題が山積みです。こうした事業にこそ優先的に予算を配分すべきです。



工事中の太閤堤跡地域の史跡ゾーン

共産党提案の4議案が可決

3月議会では、共産党が提案した4議案が可決されました。

一般会計の修正案

太閤堤跡歴史公園事業のPFI予算を削除する一般会計予算修正案が可決されました。

100条調査委の設置

おおさか維新・秋月議員の政務活動費の使途には、ガソリン代のなかにラジアルタイヤ代が含まれているなど不適切な使途の疑いがあります。共産党は「政務活動費の使途の調査に関する決議」を提案しました。決議は可決されて、調査権限のある100条調査委員会が設置されました。

補正予算修正案

市のごみ収集業務を委託されていた企業が入札停止となったことから新たな企業に4年契約で委託しようとする補正予算。ゴミ収集運搬業務のあり方を検討してから対応すべきだとして1年契約にする修正案を提案し可決されました。

アスベスト被害者救済

「建設従事者のアスベスト被害者の早期救済・解決を求める意見書」は、全会一致で可決され、政府に送付されました。

学校施設改善の請願

さらに、学校教育の充実を求める会の「学校施設の改善を求める請願」(早期に学校トイレなどの改修を求めるもの)が、共産党と無所属議員が紹介者となつて議会に提出され、全会一致で採択されました。

日本共産党
宇治市議員団だより
2016年4月3日
22-3141(内線2817)
Fax24-7884